

## 求められるコミュニティ・ヘルスケア

富山県農村医学研究会 会長 越山 健二

日本農村医学会が取り組んできた保健・医療の実践は激動の40年を経過した。昨年旭川市での第40回医学総会はコミュニティ・ヘルスケアのシンポジウムが企画され、高齢化社会が深まる中でその展開が求められている時代を強く感じた。

高度経済成長の中で、豊かで長寿の暮らしが可能となったがコミュニティを形成する家庭や地域社会は大きく変貌し、その果たすべき役割は衰弱したように思う。核家族で世帯数が少なくなり、各家庭に温もりがうすれ、人口が移動し過疎、過密の結果、伝統文化や共同体意識もうすれ、連帯と協力を失ったコミュニティになってきた。

この現象は特に過密地区に深刻なように思う。老化は何人にも避けられない重大な宿命であり、その対応は医療にとっても大きな関心事でなければならない。コミュニティ基盤

の形成はもともと、第一次産業によって築きあげられてきたが、めざましい科学、技術の発展の中で便利、簡単、アメニティ、グルメ、リゾートなど物質文明の豊かさの意識の中で、重要な家庭や地域社会の果たす役割を失いかけているのである。

高齢者は病気、孤独、無収入、無為（生き甲斐）、の4つの苦悩があるといわれ、それを支えるのは長年住みついた身心のやすらぎを求めるコミュニティである。

国は高齢者保健、医療、福祉10ヶ年戦略と銘打ってゴールドプランを提唱し、各々の小さなコミュニティでの展開に期待している。

私共農村医学研究会には伝統ある農協組織もあり従来にもまして、新しい創造的で信頼されるヘルスケアの対応に挺身したいものと思う。